SEforALL関連の省エネ関連ワークショップ（世界銀行主催）に参加しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けて、2018年1月24日～1月26日の3日間、シンガポールで開催された世界銀行（The World Bank、以下WB）主催の省エネ関連ワークショップ（Knowledge Exchange Event on Energy Efficiency）に参加し、日本の省エネ政策の特長及びその典型例であるトップランナー制度等に関する講演、及び参加政府関係者等との討議・情報交換を実施しました。

講演（ECCJ）

Shift and Share
（小グループ自由討議）

サイト訪問
マリーナベイエリアの地域冷房プラント
チラーシステムのクーリングタワー

本ワークショップは、WBの推進する「Energy Transition in Asia initiative」の一環として開催され、全世界の石炭消費量の60%、CO2排出量の40%を占める6カ国（インド、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナム、パキスタン）と、アドバイザー国（日・英・韓等）が招聘されました。

ワークショップ各テーマの討議概要は以下の通りです。

(1) Policy

中国・インド式の上意下達、統制的手法と、日本式の省エネ法を中心とした政府の包括的指導と民間（業界団体含む）の積極的フォローを前提とした官民連携方式が典型的パターンとして紹介されました。

(2) ビジネスモデル / 金融メカニズム

「EE Financing Model」には多種のパターンがあり、パターン毎の成功例があることから、対象国の体制・成熟度に応じた対応が必要とされました。

(3) ESCO

ESCOの活用がアジア諸国でも拡大しています。その中で、特に、リスクヘッジによるESCO推進策として、街路灯のLED化等の公共プロジェクトを包括的に実行可能なインドのスーパーESCO制度、韓国KEA（Korea Energy Agency）による融資リスクの減少に繋がるTA（Technical assistance)、政府支援を背景とした間接金融、更にはファクタリングによるESCO市場活性化策等が紹介されました。